

聖霊降臨節第21主日礼拝 説教「12歳のイエス様」要約

ルカによる福音書 第2章41～52節

日本キリスト教団茅ヶ崎堤伝道所

2024年10月6日

① イエス様が迷子になった？

10月から待降節に入るまで、ルカによる福音書を読み進めます。ルカによる福音書ならではのユニークな視点や切り口があります。それらのかけがえのなさを大切に致しましょう。ところで、みなさんは、迷子になって寂しくなったことはありませんか？今朝のお話しのイエス様と同じ12歳の時、わたしは一人で、父が牧する教会の信者さんのおばあちゃんのところへ行きました。ちょっとの間、一人になっただけなのに、とても不安な気持ちになったことを覚えています。でも、イエス様は少し違ったようです。みんなと三日間も離れ離れになっていたのに、久しぶりに会ったお母さんのマリアさんに「どうしてわたしをさがしたのですか」と聞いています。凄いですね！イエス様は、どうして寂しくなかったのでしょうか？それは、きっとイエス様が神様のお家である神殿にいたからだだと思います。大好きな神様の近くにいたから、イエス様は不安にならずにすんだのです。もし皆さんが一人ぼっちになったとしても、必ず、神様が一緒にいてくださるから 大丈夫ですよ。

② 七日間の過越祭

年に一度の過越祭の日、国中から集まった人々や荷物を積んだロバ等でごった返し、エルサレムの町は賑やかでした。過越祭では、神様が自分たちの先祖をエジプトの奴隷の生活から自由にしてくれた救いを思い出して感謝します。エルサレム神殿には、人々が捧げ物を持って集まって来ます。羊を肩に担いでいる人もいます。捧げものための動物も売られています。動物たちの鳴き声で騒々しかったでしょうね。七日間の過越祭が終わると、人々は自分たちの町へ戻っていきます。エルサレムの城門から出て行く人々は「今年も祭りに来られて良かった」と幸せな気持ちで帰るのです。ところが、自分たちの町に戻っていく人々の波に逆らってエルサレムに引き返そうとしている女の人と男の人がいました。「うちの子を見ませんでしたか。12歳になる男の子です。エルサレムから帰る途中でいなくなっていたことに気がついたんです！うちの子を知りませんか」。二人はエルサレムから帰る人に声をかけ訪ね回りました。エルサレムへ戻り乍ら、必死になって息子を捜しました。

③ 12歳のイエス様

イエスの両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をする程に、信仰深い人でした。母マリアはイエスの誕生における神の出来事をよく心に留めていました。しかし、その二人でも「わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だと言うことを、知らなかったのですか」(49節)というイエスの言葉の意味は分かりませんでした。少年イエスは律法に従い、一人前になって、神の前に一人で立たれました。イエス様にとってまことの父は天の父なる神でした。神の子として、イエス様は神の家にいないわけにはいかなかったのです。祭りが終わり、帰路の途中で、両親はイエスを見失ってしまいます。二人はイエス様の姿だけでなく、真実のイエス様も見失っていたのです。ひるがえって、私たちも「礼拝は休まないし、信仰熱心だ」と思い、いつの間にかイエス様のことは分かっていると思いでいいのでしょうか。イエス様の言葉を理解できなかった両親にとってイエス様の言葉は思いがけないものでした。私たちもこの両親の思いに共感し、イエスの言葉に戸惑い、立ち止まりたいと思います。イエスの存在が神の現実であり、イエスは神から来られた神の子であると悟る事ができますように。イエスが教えて下さった祈りを通して、私たちも神に「父よ」と呼びかけます。